



2019年度 休眠預金等活用事業 公募活動事例紹介

2020年11月11日
一般財団法人 社会変革推進財団

1. 組織概要
2. 2019年度 事業概要
3. 公募活動のご説明
 - A) 概要
 - B) 詳細
4. 振り返り
 - A) 上手くいった点
 - B) 工夫が必要な点
 - C) 改善案

日本財団を母体とし、持続可能な社会を支える資源の流れを、多様なパートナーの方々と一緒に作り出すことを目的に活動。

団体名称	一般財団法人 社会変革推進財団 Japan Social Innovation and Investment Foundation (SIIF)
住 所	〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目11番28号 M-City赤坂一丁目ビル6階
設立年月	2018年9月
沿 革	2013 日本財団が日本におけるインパクト投資普及のための調査研究を開始 2014 日本財団内に社会的投資推進室を発足、G8社会的インパクト投資タスクフォース(現 Global Steering Group for Impact Investment: GSG)に民間代表として日本財団が参画 日本財団がGSG国内諮問委員会の事務局を務める 2015 横須賀市、尼崎市、福岡市等でソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)のパイロット事業実施 2016 社会的インパクト評価イニシアチブ(現 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ: SIMI)発足、事務局として参画 2017 インパクト投資の市場構築に向けた取組みを本格化させるため、社会的投資推進財団を設立 神戸市、八王子市でヘルスケア分野のSIBを日本で初めて本格導入 2018 神奈川県ヘルスケア・ニューフロンティア・ファンドへ参画 2019 新生企業投資、みずほ銀行と協働でインパクト投資ファンドを設立・運営 一般財団法人社会変革推進機構と合併し、社会変革推進財団と改称

日本財団を母体とし、持続可能な社会を支える資源の流れを、多様なパートナーの方々と一緒に作り出すことを目的に活動。

世界で成長する、3次元の投資構造
インパクト投資

経済的リターンと並行して、社会的・環境的な効果を同時に生み出すことを意図する「インパクト投資」。SIIFは日本での事業モデルの創出と市場規模の拡大を目指します。



価値判断の新たなモノサシを提示する
社会的インパクト評価・マネジメント

事業や活動によって生まれる社会的インパクトを定量・定性的に把握する評価と、これを活かして社会的インパクトを高める活動を継続する社会的インパクトマネジメント。双方を日本で実践し、知識開発に取り組みます。



公共セクターのパラダイムシフト
PFS（成果連動型民間委託）
SIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）

行政から民間事業者に委託する事業に対し、社会的な成果に応じて支払いをする契約（PFS）や、その際に投資家から資金調達を行う手法（SIB）など、公共サービスをより成果志向に変革するための仕組みづくりに貢献します。



おカネ以外の価値交換が支える新しい経済
オルタナティブ

経済資本主義では価値化されにくい社会資本、自然資本、文化資本、人的資本、感情資本等を価値化する事業モデルや仕組みづくりに取り組みます。



意志ある資金がイノベーションを起こす
進化するフィナンソロピー

個人寄付や民間財団による慈善活動が、革新的効果をもたらすよう、社会的インパクトを持続的に生み出す新しいフィナンソロピー活動を後押ししていきます。



2. 2019年度 事業概要

地域資源の可視化・価値化を通じ、好循環システムの確立を目指す
「地域活性化ソーシャルビジネス支援事業」。

SHARE VILLAGE (株) ハバタク/Share Village (秋田) : 域内・域外の関心者が出資・資金提供する協同組合型のコミュニティが古民家等の遊休資産を価値化・可視化し、利用する、自律的なコモンズとして運営(3,000万円)



sonraku (株) sonraku(北海道) : 木質バイオマス熱電併給設備を導入し、森林資源の好循環を生み出し、地域に産業と雇用の創出を行うなど、地域の内部経済の循環(5,485万円)

Ridilover (株) Ridilover (新潟) : 「大地の芸術祭ブランド」を活用し、棚田バンクやファンクラブ設立を通じ、資金獲得・移住等を通じ自立した里山地域エコシステム形成を目指す(3,000万円)

POCKETMARCHÉ (株) ポケットマルシェ (岩手/全国) : 生産者と消費者の共創マーケティング市場を創造・開拓、強い一次産業を育成、担い手増、関係人口の増加を目指す。(3,000万円)

御祓川 (株) 御祓川 (石川) : 人口減少と高齢化が著しく、里山里海の担い手確保が課題である能登において、地元金融機関への非資金的支援スキルのノウハウ移転を行い、奥能登におけるまちづくり会社化を図る。(3,293.4万円)

Renovater Renovater (株) (京都) : 築古物件を買取り住宅確保困難者向けに賃貸し、空き家問題解決と、単身高齢者・母子家庭・外国籍・生活保護世帯等の「こころ安らげる住まい」提供を目指す(京信)(3,000万円)

広報や事前相談を行いつつ、3ヶ月に渡り応募を受け付け。130件超のお問い合わせ、75件のご応募をいただいた。

- 公募期間：2020年3月31日～2020年6月30日
- 活動内容：情報発信、事前相談
- 問い合わせ：130件超
- 応募数：75件

3次に渡り、応募を受け付けた。

- 公募期間：2020年3月31日～2020年6月30日
 - 第一次：2020年3月31日～2020年4月28日
 - 第二次：2020年5月 1日～2020年5月29日
 - 第三次：2020年6月 1日～2020年6月30日

公募を周知するため、広報活動や信金中央金庫様との連携を行い、
多数のお問い合わせを頂いた。

• 情報発信

— 広報

- オウンドメディア
 - ✓ WEBサイトでの公募概要の公開
 - ✓ プレスリリース
 - ✓ ブログでの担当者の想いの掲載
 - ✓ SNSでの職員からの発信
 - アーバンドメディア
 - ✓ 2/26 日経新聞電子版、2/27 日経新聞朝刊、2/28 ニッキン

– 信金中金様との連携

- 信金中金様経由で各信金様に伝達。
また、上記メディアへの掲載にあたり、お力添えいただいた。

- 報道：107件

- ・問い合わせ：130件超 ※累計

申請書をご提出いただくにあたり、公募要領にて事前相談を推奨し、対応した。

応募件数の獲得、事業者様とのコミュニケーションについては、上手くいったと思料。

- 想定以上の応募件数
 - 積極的、多様な広報活動。
 - 信金中金様との連携。※休眠預金が民間資金の呼び水となる契機としても期待。
- 事業者様とのコミュニケーション
 - 広報活動
 - 当方の組織としての考え方や担当者レベルの人柄・雰囲気等を訴求。
資金分配団体として、実行団体様を採択する立場ではある。
他方、事業者様にとっても約3年間共に働くパートナーを選ぶという観点もある。
 - 事前相談
 - 事業者様に寄り添った対応を実施。
相互に事業の趣旨・意図を理解し合えるよう、質疑応答や議論を実施。
 - ✓ 不採択となった事業者様からも、良い「壁打ち」になったとご連絡。
また、採否について、大きな問題は生じていない。
 - ✓ 事前相談の結果、ご応募に至らなかつた事業者も存在。
申請にかかる不要な労力を削減できたと考える。

他方、公募活動にあたり、一定のリソースを必要とした。また、流入経路の履歴を残していなかった。

- 流入経路
 - どの様な経路で問い合わせをしていただいたか、履歴に残していなかった。そのため、情報発信の施策効果を分析することが困難。
- リソース
 - 90回超の事前相談を実施。
 - 広報活動においても相応の時間を要した。

問い合わせや事前相談の受け方には、工夫の余地があると思料。

- 問い合わせ
 - 電話にせよメールにせよ、どのような契機で問い合わせいただいたか、履歴を残す。
- 事前相談にかけるリソースの削減
 - 面談の対応人数を削減
 - 当初は2~3人で対応していたが、1人に任せて良い回もあった。
 - 対応時間を削減
 - 1時間、設定することが多かったが、30分程度に短縮できる回もできた。
 - メールを活用
 - 面談も重要ではあるものの、申請書類のニュアンスの確認などはメール対応できた。